

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	タウオパチー患者脳におけるタウ蓄積、神経変性機序に関する研究
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
対象者：2001 年 4 月 1 日以降、新潟大学脳研究所病理学分野で病理診断され、その脳組織が同施設で保管され研究に利用されることにご遺族が文書で同意された方の中で、臨床病理学的にアルツハイマー病、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、もしくは Pick 病と診断された方、および、中枢神経疾患を認めないと診断された方が対象です。性別、年齢をできるだけ合わせてそれぞれ 6 例、合計 30 例を選定し対象といたします。 対象期間：承認日～2027 年 3 月 31 日	
③概要	
アルツハイマー病をはじめとするいくつかの認知症に関連する疾患では、タウタンパク質が凝集して、神経細胞内に異常蓄積することにより神経細胞死が生じると考えられています。このような疾患はタウオパチーと総称されています。タウオパチーにおいて、タウの異常蓄積や神経細胞死が生じるメカニズムは未だ不明です。タウオパチーの発症メカニズムを解明するために、本研究では、新潟大学脳研究所に保管されている病理解剖で取得されたタウオパチーの患者さんの凍結脳組織及びパラフィン包埋脳組織切片を用いて研究を行います。具体的には、タウオパチーの患者さんの凍結脳組織からタウ分子を分離し、タウオパチーモデルの細胞や動物に添加・投与し、タウタンパク質の形態や細胞や組織への影響を評価します。また免疫染色によってタンパク質の発現状況を調べます。	
④申請番号	C2022-0039
⑤研究の目的・意義	本研究の目的はタウオパチーにおけるタウタンパク質の神経細胞内異常蓄積や神経細胞死のメカニズムを明らかにすることです。本研究の結果から、タウオパチーの病態解明や治療法の開発につながる知見が得られる可能性が期待されます。
⑥研究期間	倫理委員会承認日～2027 年 3 月 31 日
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	東京大学大学院医学系研究科・神経病理学分野に、新潟大学脳研究所病理学分野において、病理解剖で採取した死後脳組織、及び付随する情報(脳組織所見、症例番号、年齢、性別、臨床診断、罹病期間、治療経過、処方歴)を提供します。剖検脳組織を用いて、タウを含む抽出液を調整し、培養細胞に添加するあるいは、モデルマウスに投与する実験を行います。また免疫染色によってタンパク質の発現状況を調べます。
⑧利用または提供する情報の項目	病理解剖にて採取した凍結脳組織、パラフィン包埋脳組織切片、付随する臨床情報（年齢、性別、疾患名、罹病期間、中枢病理所見）

⑨利用の範囲	新潟大学脳研究所病理学分野及び東京大学大学院医学系研究科・神経病理学分野
⑩試料・情報の管理について 責任を有する者	新潟大学脳研究所病理学分野 柿田明美 東京大学大学院医学系研究科・神経病理学分野 山田 薫
⑪お問い合わせ先	新潟大学脳研究所病理学分野 柿田明美 電話：025-227-0633 FAX: 025-227-0817 e-mail: kakita@bri.niigata-u.ac.jp